



大浦居留地と長崎港 1872年(明治5)  
長崎出身で日本最初の職業写真家 上野彦馬の  
撮影  
(長崎大学附属図書館所蔵)



上野彦馬が使っていたカメラ  
(長崎歴史文化博物館蔵)

### ■ 海外交流のために開かれた港

長崎の港は、海外との交易のために1570年(元亀元)に開かれ、ポルトガル・スペインとの南蛮貿易で賑わいました。その後江戸幕府は、鎖国政策により西洋との交易は出島でのオランダ一国とし、中国との交易も唐人屋敷という中国人居住区を長崎に定めて行いました。長崎は海外からの様々な文物や情報を日本全国へ伝えるための窓の役割を果たしていたのです。

### ■ 日中交流の系譜

長崎の興福寺・福濟寺・崇福寺といった唐寺の建立や、隠元(いんげん)・木庵(もくあん)・即非(そくひ)といった唐僧たちの渡来によって日中の文化交流が本格化しました。また唐人屋敷に居住する貿易商や船頭の中にも芸術家・知識人が数多くおり、彼らは長崎の文人・市民との交流を通じ、絵画、書、詩文などの文化芸術分野から、医薬、土木技術、祭り、年中行事、食べ物、生活習慣にいたるまで長崎・日本に大きな影響を与え、現在に至っています。

### ■ 日本の近代化のさきがけ

開国を迫る欧米列強の海軍力に対抗するため、江戸幕府は1855年(安政2)長崎奉行所に海軍伝習所を設置します。加えて1857年(安政4)の医学伝習所、1858年(安政5)の英語伝習所設置により、西洋の最先端の科学技術が急ピッチで長崎から発信されることになりました。

### ■ 少年梅屋の見た長崎

海軍伝習の一環として1857年(安政4)に起工された長崎製鉄所も、明治維新後の官営期を経て三菱の長崎造船所となり、日本の造船産業を支えていきます。また、1859年(安政6)の開港により長崎には外国人のための居留地が造られ、欧米の貿易商とともに中国人貿易商も多く居住するようになりました。当時の長崎には写真、印刷、炭鋳、通信の分野に最新技術がいち早く導入され、明治初期、名実ともにアジアの国際都市となっていました。